

FACE





最小限の時間で最大限の医療を
専門医と連携し



小児救急を当院の特色へ

当院の救急医には救急と小児の両方の専門性を持ちながら、さらに重篤なこどもの救命を得意とする「小児救急医」であるという特徴があります。

2025年1月、滋賀県立小児保健医療センターとの統合により、当院は際立って多くの小児科医と小児病床を有することになります。当院の総合力と「小児救急医」の存在に、小児保健医療センターの専門性が加わることは、足し算ではなく、掛け算としてこどもたちに還元されることとなります。

2021年、これまで受け入れ経験のなかった小児の入院環境を構築し、県内の小児コロナ患者の約3分の1を受け入れました。2024年1月からは、統合に先駆けて救急車で来院する小児患者の受け入れを開始し(平日日勤帯のみ)、入院が必要な場合には小児保健医療センター(内因系)と当院(外因系)で管理する体制を構築しています。

滋賀県は全国的にもこどもの人口比率が高い県です。この「こども県」の県立病院として、小児救急医療の地域格差をなくすための施策を展開し、「滋賀モデル」として先進的かつ高度な体制を築いていきたいと考えています。小児救急医療は病院経営的には不採算となりやすい領域です。県立病院である当院がこの役割を担うことには大きな意味があります。当院が、全国的にもまだ実現できていない、持続可能かつ格差のない小児救急医療体制の構築と維持を実現するための核となれるよう努力して参ります。



救急車受け入れ件数2倍以上増加

当院では2021年4月に救急科を新設し、救急科専門医と看護師が救急室に常駐するようになりました。また、救急診療をより効率的かつ安全・迅速に行うための方法について各部門と議論・試行錯誤を繰り返してきた結果、救急車の受け入れ件数は2020年度は1557件でしたが、2023年度には3726件まで増加しました。

以下に主たる5領域について当院の救急の特徴を紹介します。

1. 心肺停止

湖南広域消防局や他病院のドクターカーと共同して、現場からのシームレスな蘇生が行えるように努めています。事前の情報によってはカテーテル室や経皮的な心肺補助装置(ECMO)をスタンバイさせた状態で患者を受け入れ、最小限の時間で最大限の医療資源を投入できるよう努めています。

2. 循環器疾患

救急科が全身評価と管理を行い、循環器内科が心臓の評価やカテーテル検査の準備に集中することによって、安全かつ1分でも早い冠動脈の再開通を目指しています。2023年度は病院到着から冠動脈再開通まで平均63分となっています。また、心臓血管外科の存在によりその他の循環器疾患であっても他院に搬送を行うことなく、管理することができます。

3. 脳血管疾患

救急科が急性期の脳卒中と判断すれば、全身評価・管理をしながら採血、CT、MRI/MRAなどの検査が途切れることなく進みます。ドクターカーによって事前に判断された症例の場合には、到着後そのままCTを撮像し、出血がなければMRI/MRAの撮像に直行しています。脳梗塞については到着から30分以内に血栓溶解療法を開始し、連続して血管内治療を始めることが可能になっています。

4. 消化器疾患

循環の破綻した消化管出血や、全身状態が不良となった肝・胆・膵疾患、腸閉塞などの急性期消化器疾患については、根治的な治療を行う消化器内科や外科と連携しながら、根治術までの全身状態の安定化を行っています。

5. がん救急

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、がん治療を受けられている患者が多いのが特徴です。がん救急の領域については、全身状態の安定化だけでなく、当該各科と連携しながら緩和的側面からの救急医療も提供しています。

※救急科による対応は平日日勤帯に限り、それ以外の時間は内科系/外科系/循環器系当直医が対応しています。



救急科 科長 兼
小児科 科長

野澤 正寛

滋賀の新たな挑戦のために

当院に着任して驚いたことは、各診療科の診療レベルの高さと、全ての部門のスタッフがプロ意識を高く持ち、向上心にあふれていることでした。皆で議論を重ね、質の高い救急医療体制の構築が実現できたことや、コロナ禍において小児患者の対応ができたことは、新しいことへ挑戦するための当院のポテンシャルの高さを証明していると思います。

私はもともと小児科医でした。東日本大震災でDMAT隊として派遣された経験が、救急医になる挑戦のきっかけとなりました。当院は新型コロナウイルスという災害を新しい形を創造しながら乗り越えてきました。そして今、小児保健医療センターとの統合という新たな挑戦が始まろうとしています。滋賀県に生まれ育ち、滋賀医科大学を卒業した私は、滋賀愛がとても強いという自負があります。この滋賀の新たな挑戦に、私の救急医かつ小児科医としての経験が役に立つのならばこんなに嬉しいことはありません。

救急医には、診療において「人・空間・時間」をマネジメントするという専門性があります。救急診療はチーム医療であり、救急医はチームの力を最大限引き出して患者に還元するために何をすべきかを考えています。この専門性を診療の場面だけでなく、救急領域における当院の各部門の潤滑油となるために、また当院と地域の皆様の潤滑油となるために、そして当院の新たな挑戦への潤滑油となるために発揮できるよう努力して参ります。



日本救急医学会 救急科専門医・指導医
日本小児科学会 小児科専門医・指導医
日本外傷学会 外傷専門医
日本航空医療学会認定指導者
日本DMAT隊員・統括DMAT
滋賀県災害時小児周産期リエゾン
滋賀県大津市出身
2021年4月当院の救急科新設に伴い着任

Information

湖南広域消防局から 高規格救急自動車が譲渡されました



湖南広域消防局で使用されていた高規格救急車を、多くの救急器材も併せて無償で譲渡していただきました。患者さんの搬送に活用していくとともに、年々増加する救急搬送の中心である湖南広域消防局と密接に連携して、県民のみなさまにより良い医療を提供できるよう努めてまいります。

ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見やご感想をぜひお寄せください。
お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォームよりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌
「FACE」に関するアンケートフォーム



心のふれあいを大切にして安全で質の高い医療福祉を創生し提供する。

 **滋賀県立総合病院**
Shiga General Hospital

〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号
TEL.077-582-5031(代) / 0570-00-5031(ナビダイヤル)
[診療受付時間] 午前8時30分～午前11時 ※2科受診の患者様を除く
[休診日] 土曜日・日曜日、祝祭日/年末年始(12/29～1/3)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/index.html>

滋賀県立総合病院

病院HP



FACE

滋賀県立総合病院広報誌

発行：滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)
発行日：2024年6月

バックナンバーも
ご覧いただけます

